

ク併セテ岐阜縣トス、

〔古事記開化〕神大根王者、三野國之本巢國、
長幡部連之祖、

〔古事記傳二十二〕三野國之本巢國造、此は二氏にて、上は三野國造なるを、造字を之に誤れるな
るべし、古代宮殿に、三野國造之祖、神大根王と見え、書紀其卷にも、美濃國造名神骨とあればな
り、若三野の本巢ならば、白檜原宮段末に道奥石城國造常道仲國造などある例を思ふに、三野
國造本紀にも、美濃前國造、春日率川朝皇子彦坐王子、八瓜命定賜國造とあり、此次に三野後國
如レ此前と云後と云るは、越前越後などの例の前後にや、若然らば、美濃の内にて、本巢郡は京師
の方に依れ、ば、道口とも云つべければ、三野前國とは本巢郡のあたりを云るものとして、此
も其國造として、三野之本巢國造と云る證ともすべきが如くなれども、美濃國を前後と二に
分むには、其前の方に本巢をおきてなほ數郡の地あれば、本巢國造の外に、三野前國造あら
むも妨なれば、其を三野國造と云むも又妨なし、又本巢郡の内に美濃郷もあれば、上古に三
野國造と云しは、其あたりの國造、本巢國造と云しは、又本巢と云地もありけむ、其處の國造な
りとせむも、何事かあらむ、又かの前後とあるは、時代の前後を分て云るかとも思へども、若然
らば、一に舉べきに、別に舉たるは然には非じ、八瓜命は神大根王の亦名にて、上に出たり、天武
紀に、美濃連と云あれ、本巢は、和名抄に、美濃國本巢毛止郡これなり、
ども、異姓なるべし、

〔先代舊事本紀十國造〕三野前國造、

春日率川朝化○開皇子彥坐王子、八瓜命定賜國造、

三野後國造

志賀高穴穗朝○成御世、物部連祖出雲大臣命孫、臣賀夫良命定賜國造、

〔日本書紀景行七年〕四年二月甲子、天皇幸美濃○中是月天皇、聞美濃國造名神骨之女、兄名兄遠子、弟名

弟遠子、並有國色、則遣大碓命使察其婦女之容姿、時大碓命使密通而不復命、由是恨大碓命、

〔倭姬命世記〕十年辛丑、仁垂遷幸于美濃伊久良河宮○中次遷于尾張國中島宮坐天、三箇月奉齋、倭
姬命國保伎給、于時美濃國造等、進舍人市主、地口御田、並御船一艘進支、同美濃縣主角鎧作之而進
御船二艘、捧船者天之曾己立、抱船者地之御都張止、白而進、